

登校しづりや教室に入れない児童への対応

不登校児童の状況

対象児童は、小学校4年生から登校を渋るようになり、授業は家庭からオンラインで受けるようになった。小学校5年生になり、4月は学校に来て教室で授業を受けていた。5月頃から徐々に休みが多くなり、学校に来ても教室に入れなくなった。6月の移動教室には参加できたが、その後も登校しづりが続いている。

具体的な取組

○校内別室の活用

不登校児童の支援として、本校に昨年度開設された「校内別室」を利用することで、当該児童が学校で安心して過ごせる居場所ができた。

このことにより、小学校4年生の頃は家庭でのオンライン授業が中心だったが、学校に来て「校内別室」で支援員と学習する時間ができた。

○保護者と電話・連絡網での連携

電話連絡や面談、連絡網を活用したメールでのやり取りを定期的に行い、保護者との連携を密にした。当該児童の学校での様子を伝え、家庭で振り返りをしてもらったり、学校で過ごす上での約束事を伝えてもらったりした。また、家庭での様子を聞いたり、医療機関での情報を共有したりして支援に役立てた。

○保護者と連携した目標の設定

目標は、保護者、当該児童の意向を汲み取って設定した。現状は学校に来ることができれば良いという目標で、学校ではできるだけ負荷をかけずに見守りを続けた。

その結果、「校内別室」に登校する回数は安定した。



○校内の先生の声かけ

本校には、特別支援教室が設置されている。当該児童は特別支援教室には通っていないが、特別支援教室の先生方をはじめとして、養護教諭や特別支援教室専門員など、沢山の教職員に見守られ、声をかけてもらった。関わりの多い教職員には、当該児童の情報を適宜伝えるようにした。

成果

当該児童の気持ちに寄り添いながら、保護者と丁寧に連携することができた。

「校内別室」への安心感を高めることで登校頻度の改善と安定につなげることができた。



課題

「校内別室」には来られるようになっているが、ここから教室での授業に参加できるようにするために必要な手だてについて検討をしていく。